

成長の添木



背景

近年は技術の発展と環境問題への対策に伴い中大規模木造建築などの木材を使った空間が増えており、我々の生活と木材はより身近な関係に進んでいる。木材は循環によって無限の資源となる材料であるため、今後も木材利用による発展と課題解決を継続していくには循環の仕組みの維持と補助が必要不可欠となり、林業従事者の減少は早急に改善すべき問題の一つである。今回この問題への対応策として木と共に学び、成長する施設を設計することで、林業・木材産業への興味を持つきっかけを作り出す。

建築物における木材利用

【建築物における木材利用の促進の意義】

1. 国産材の利用拡大によって林業・木材産業の持続性を高め、森林の適正な整備への寄与
2. 木材の大量消費に伴う炭素固定によるカーボンニュートラルの推進
3. 心理面・身体面・学習面等での効果から快適な空間の形成に貢献

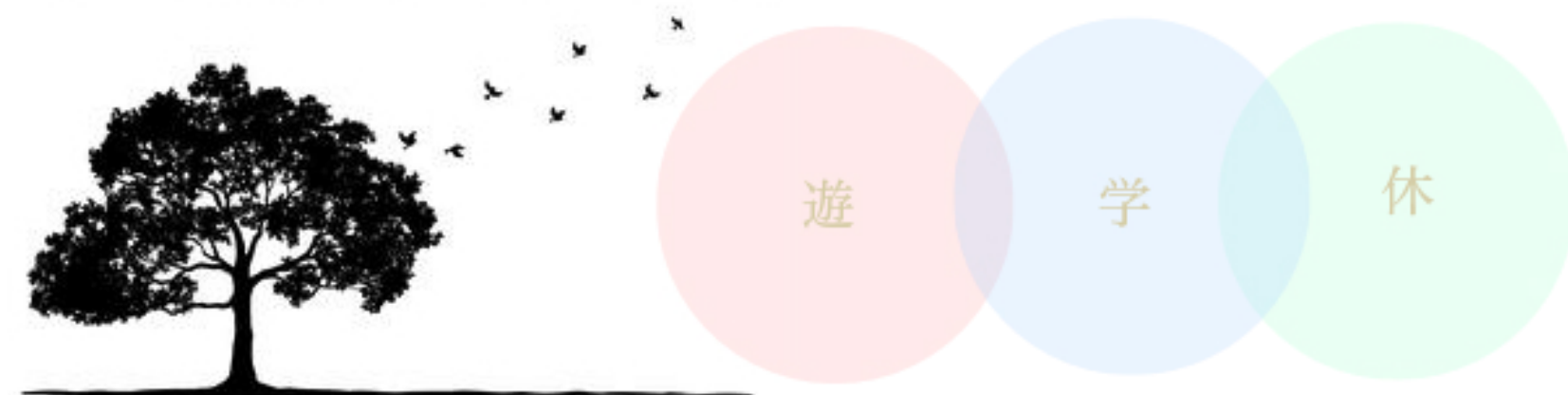
敷地

当該敷地は秋田県由利本荘市の羽後本荘駅前である。羽後本荘駅前は由利本荘市の中でも交通の中心となっており、それに伴い人の往来が特に多い場所となっている反面、公共交通機関の利用以外で訪れる人は少なく、立地の良さに反して活気が乏しいのが現状である。地域の玄関となる駅前にシンボルとなる施設を建てることにより、地域の活性化を図ると共に木について知ってもらう機会を創出し続けていくことが出来ると考える。また、敷地近郊には秋田県立大学の本荘キャンパスがあり、建築を学ぶ学生に対して本設計が木への興味・関心を高めるきっかけとなることで次世代の木材利用サイクルへ参入する人材を生み出す手助けになることを期待する。

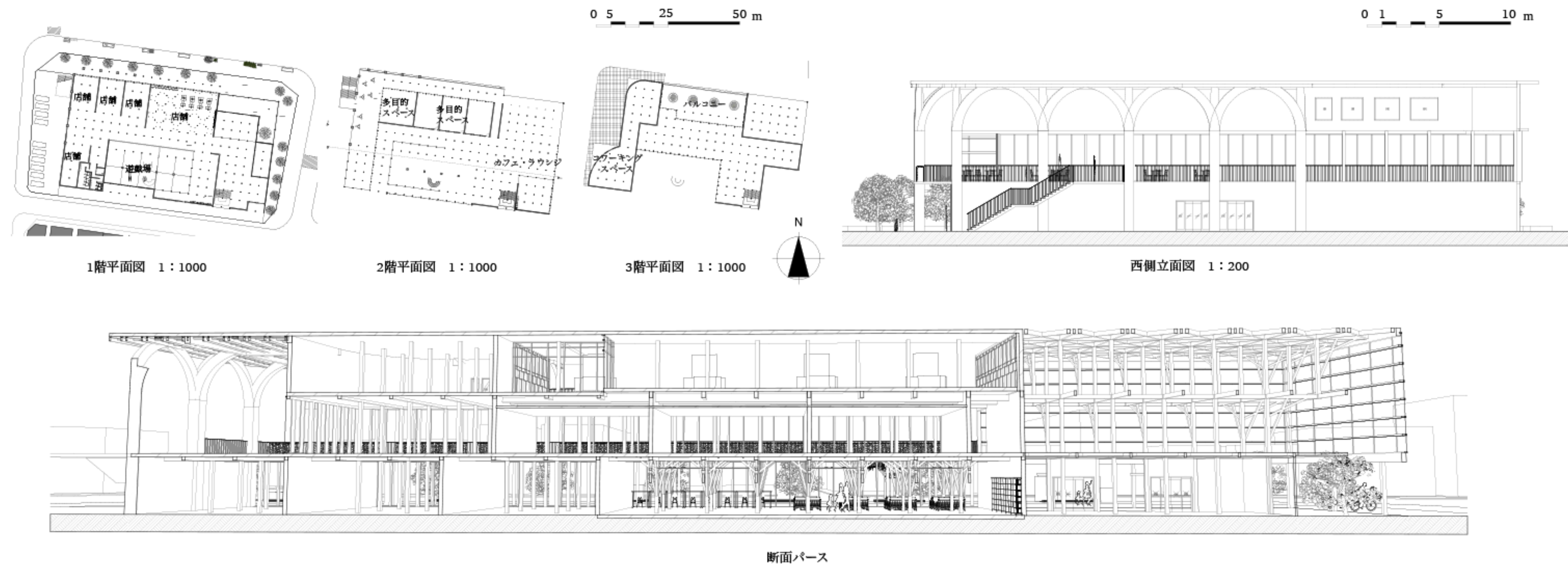


木と共に育つ

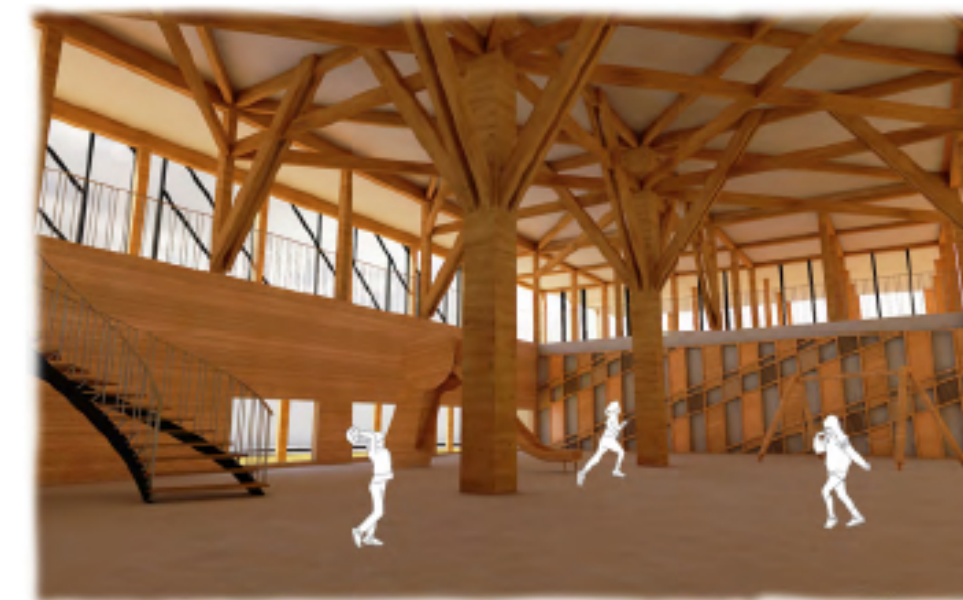
学びと成長の場に木材を利用することで教育的効果の向上が見込まれる。ストレスの低減、調湿効果による快適性、足に掛かる負担の低減と安全性の向上といった恩恵を受けながら遊び・学び・休みを繰り返し、子どもに限らず大人も成長し続けられる空間を創造する。



空間構成



曲線を用いた架構と高い天井が木材の生み出す豊かな造形を印象付ける。半屋外空間と木材と柔らかな曲線を用いることで安らぎのある空間となり、人々の憩いの場となる。



木製の玩具や遊具で遊ぶことで、木の感触や匂いを体感しながら健康な心身を育む。ここにある木の玩具を実際に作るワークショップを開催することで子ども達の木への興味・関心を促進する。放射上に広がる架構が有機的で広々とした空間を生み出す。



休憩スペースは樹状方柱によって森の中にいるような印象を与える。バスや電車を待つ人々や遊技場で遊ぶ子どもの親、友人とお喋りする人が一息つくことが出来る。



下から上に広がっていくような架構の意匠が印象に残るファサード。夜にはライトアップされた架構が駅から出てきた人々を出迎える。